

令和元年度 学校教育努力目標と対策(職員の評価) 玉名市立横島小学校

	項目	前期	後期	対策	
夢の実現に向けて、確かな学力、豊かな心、健康・体力を身につけた児童・生徒の育成	共感力	①自他の良さに気付く工夫	2.82	3.14	①新たに、「横島タイム」を実施するようになり、子どもたちが互いに思いを伝え合ったり、互いのことを認め合ったりする活動ができた。今後も継続して行っていくことが大切だと感じた。友だちのいいところ探しやきらりさん紹介コーナーなど、機会を捉えてお互いの良さに気づかせる取組を行う。高学年の児童が低学年と関わる体験から自尊感情が生まれやすいことから、縦割りの活動を取り入れる。 ①職員研修に特別支援教育やUDの視点を取り入れ、職員の児童への対応を学び、指導に生かす。 ②人権学習では、学習の学びと自分とを重ね、きつい思いをしている友達の思いを共感しながら考えさせる取組を続ける。人権集会を人権学習の核として位置づけ、教科横断的に全教育課程で人権尊重の視点に立った学級経営に努める。 ③日頃、子どもたちと関わる中で、子どもたちの様子や、子どもたち同士の人間関係の把握に努め、いじめの兆候などをつかむよう心掛ける。児童の様子で、気になった言動や行動を職員で共有し、初期対応を迅速に行う。
		②人権集会・交流活動等の工夫	2.88	3.00	
		③いじめの未然防止	2.88	3.07	
	考動力	①主体的・対話的で深い学び	2.76	3.07	①児童による学習のめあての設定、問題解決の見通し、共同的な学び、学びの振り返りなどの場面を学習活動の中に位置づけることを意識する。話し合いの目的や課題を焦点化することで、児童が主体的に取り組み、友だちと共に考え学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業を目指す。 ①「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」も重視して、授業を改善し、問題解決型の授業を目指す。 ②カリキュラムマネジメントの発想を大切にして、行事や委員会活動を見直す。課題や具体的な取組など児童の発想を大切に、マネジメントシートを活用した取組をする。 ③生徒指導の3つの機能をあらゆる教育の場に生かす。3つの機能とは、子どもに「自己決定の場」、「自己存在感」を与え、「共感的人間関係」を育成することである。具体的には自分で考えた行動に責任を持たせ、活動の振り返りや修正を行う。子どもの独自性や個性を大切にする。常に子どもの人間性を大切に接する等である。 ◎危険予知能力指導による安全指導、元気度チェックによる生活リズムづくりを通して安全・健康な生活態度の育成を図る。
		②行事や委員会活動の工夫	2.76	2.93	
		③自己指導能力の育成	2.41	2.79	
		◎安全・健康な生活態度の育成	2.82	3.07	
	やり抜く力	①基本的知識・技能の習得	2.94	3.00	①間違い直しを徹底し、基本的知識・技能の習得につとめる。引き続き音読・計算カード、宿題等で家庭との連携を図る。 ②児童に物事をやり遂げさせるためには教師の持久力・忍耐力が必要である。根気強く継続して指導を続けていく。 ③オンラインゲームやyoutubeを見ることなどが原因で早寝ができていない児童もいる。懇談会等で基本的生活習慣の大切さを家庭に伝えていく必要がある。げんきどチェックの結果から、就寝時刻が遅い、ハンカチ・ちり紙の所持ができていないことが課題である。学級だより、保健だよりなどで家庭へ呼びかける。 ④行事に向けて設定した目標を意識させ、活動後に振り返り達成感を味わわせる。
		②持久力・忍耐力等の育成	2.88	3.07	
		③基本的生活習慣の育成	2.65	2.93	
		◎達成感・成就感を味わう中でやればできるという自信や自己有用感の育成	2.82	3.07	
	地域とともにある学校	①信頼される学校づくり	3.00	3.21	①共感的な児童理解と、丁寧な初動対応に努める。素早く丁寧に保護者へ連絡や報告することを心がけ、保護者と共に協力して子どもを育てるというスタンスで事に当たる。 ②花がいつも咲いている環境作りを目指す。職員でできる分については、職員で、場合によってはPTAに協力をいただきながら環境整備をしていく。 掲示物を掲示委員会の常時活動として丁寧に張りなおすようにする。
②学びの場にふさわしい、教育環境の充実		2.94	2.93		
③教職員の基本的な資質と専門性の向上		3.00	3.00		